

山行報告

■富士山 一合目から剣ヶ峰へ

●日 程：8月10日(水)～13日(土)

●参加者：L高島 SL安田 乙坂 春本

●行動記録：

(1日目)富士宮五合目登山口(6:00着)6:40発～六合目雲海荘(6:50着)7:05発～宝永第一火口縁(7:20着)7:45発～新七合目の山小屋(8:45着)8:50発～元祖七合目の山小屋(10:05着)10:25発～八合目(11:15着)11:25発～八合目の少し上3295m地点(12:00着)13:00発～元祖七合目の山小屋(13:30着)13:45発～新七合目の山小屋(14:15着)14:25発～六合目雲海荘(15:00着)

(2日目)六合目雲海荘8:00発～富士宮五合目バス停(8:15着)

◆富士山1合目から頂上を目指す～青春18切符を使って～

乙坂



8/10 姫路方面から、最終ピックアップの明石6:39で全員JRに乗り、目的地：富士宮駅を目指しました、到着は15時過ぎ。前日まで東北地方以外はお天気の問題は無く、気にしていませんでしたが、乗車中何気に見たお天気情報で台風が発生、12日は雨マークが付いていました。

明日は晴れても翌日は雨。富士山からの眺めは見れないなあ…と思いつつ1日目を終えました。

8/11 朝、身支度が終わり時間がかなり余ったので、何気に5合目から登ったとして頂上までどのくらい掛るかぼんやり計算してみました。6時間位かなあ

1合目登山口「水ヶ塚公園」へ移動の為タクシーに乗り込みました。途中、運転士さんが下車場所を何度も確認され、最後確認された際 “富士山からの眺めが見てみたい” という思いが一致し、5合目登山口から登る事に急遽予定変更。

富士宮口5合目は標高2400M、タクシーから降りるとひんやりしていました。

体を慣らす為、1合目から歩いた場合の目的であった、宝永山に行ってみる事に。大きくえぐられた第一火口があり、砂漠のような風景でした。

この日はとても天気が良く、明日から大荒れの天気になるとは思えない程、空は澄み切って遠く御前崎の先端、箱根方面までくっきり見えました。後で雲海荘のおかみさんと話をしたのですが、このように遠くまで見える事は少なく、嵐の前の静けさ?の時だけ、遠く御前崎までくっきり見えるのだそうです。

さあ、いよいよ縦方向に登山を開始。最初はさらさらした砂と小石ゾーン。雪道を登っているような感覚で踏ん張り辛く、次にゴロゴロ石ゾーン注意が必要。こまめに休憩せねばすぐに

息が上がり、小休憩では息が落ち着かず、なかなか進みませんでした。

15時過ぎから雨マークとなっていた事と、下山する為の余力を考え、12時30分頃 YAMAP の記録では 3295m、8合目過ぎた辺りで登頂を断念する事に決めました。

下山後予定通り、雲海荘に宿泊。翌日は台風と大雨の予報であった為万年雪荘はキャンセルし、1日繰り上げて帰ることにしました。行って見て分かった事ですが、手を洗う水・顔を洗う水・トイレを流す水は一切ありません。山小屋のトイレはバイオトイレで洋式、使用料は1回200円。

今回お世話になった山小屋雲海荘は女性達で運営されている為か、細かい配慮がされていると感じました。一人一人スリッパが貸し出され、寝床も枕カバー布団カバーが為され、気持ちよく過ごせました。下山後に「花の湯」に立ち寄りサッパリ☆ この温泉、モンベルのレンタルショップが併設されており、登山靴、ザック、レインウエア…ほぼ全て借りる事が出来ませす。ご参考に！

リーダーの高島さん、突然の台風発生により、判断せねば為らない事が多く、青春18切符での乗換に気を付け、気苦労が多くなりましたが、きっぱりとした判断で導いて下さったおかげで、安心安全で終える事が出来ました、本当にありがとうございました。花の湯、雲海荘での荷物のデポで、必要最低限で登る事が出来たのは事前に色々調べられたからですね。

サブリーダーの安田さん、クーポンを交えてのお会計細かく大変だったと思います。いつも冷静でおられたのに癒されました。皆様、ありがとうございました。

◆高嶺の花だった富士登頂

春本

夜明け前富士宮から4名を乗せたタクシーの正面に観える富士山は頂上の尖がったシルエットです。一合目を過ぎ五合目へ向かいます。

昨日前泊するアクセス中のJR車内で、台風発生こちらに接近とニュースを受けて急遽コースの短縮をしいられてのことです。タクシー車内で私の耳はキーンと1000m超えのサインです。夜が明け朝日がさす麓の眺めは最高で、まだ登山者はほとんどいません。

入山料を支払いトイレもすました頃には、今日8月11日は山の日お盆の始まりとかなりの人出が続々と上がってきました。

はやる気持ちでストレッチもそこそこになり、六合目宝永火口へほぼ水平移動です。

雲も少なく下界と火口の景色はここでしか観れないすばらしいものでした。



この標高は2,500mあり、すでに西日本のどの山より高く次の七合目を目指します。

ところが高山病なのか息が苦しくなり、身体が重く感じ足が坂についていけなくなり、富士独特の砂漠の様な埃っぽい足場も手伝ってペースがぐんと落ち休憩を増やすやら、多めに持参した飲料もメンバーに預ける始末。七合目3000m超えて4名が少し離れ気味になりまして、北岳越えの八合目3,250mの池田館うへの浅間神社奥宮鳥居辺りへきて私は身体が動かなくなってしまい

ました。(昨日、富士宮本宮でお参りしなかった罰か)

お昼だったのでおにぎり休憩をして回復をはかって頑張りがかったが見込めず、リーダーと山相談でここであきらめることに、、、

雲やガスが出始めての下山は絶景を覆い隠し、何やら雨雲と風が発生しました。

降り休憩時にベンチを譲った男性、頂上でツェルト泊の帰りだとか、昨夜の星天は八回目に
して一番素晴らしかったとのこと。

疲弊しきった身でしたが下山を始めるとなぜか動きが軽くなり、余裕で写真を撮ったり足の運びもよく雨雲らしきものが近づいてくるのでストックでリズムよく駆け降ります。

六合目の宿に近いところで靴のかかかとが剥れてきた、これが宿に遠いところだとぞっとする。宿に着くなりしばらくして雨が降り出し、この雨は帰るまで続いてました。

宿のおかみさん曰く、今日の午前中の見晴らしは台風前触れの好天で、一過の晴天にも似た珍しいものだそう。

この度は台風が一番の障害だったが、臨機応変でメンバーの意見を出し合い、それを取りまとめたリーダーは立派でした。

良かったこと◎自己最高標高点更新した。◎困難もあったが4人で頑張った。○富士宮焼きそばが食べれた。気を付けたいこと△集合や約束時間やペースに私が早めに行けず待たせた。△荷物に飲料を詰めすぎた‘結局夏山に使っても余った’

山で唯一天気図に記載される富士山、大方が初めてのコースで机上では知恵や情報収集で挑んだのですが、3日間を短く迫られた台風により胸を借りるための富士の胸までしか登れなかった悔しさは、次回に継ぎたいです。

2022 夏山集中登山①～⑧コース

- 山 域：北アルプス
- 参加人数：男性18名 女性30名
- 集 中 日：8月22日(日)
- 集中場所：西糸屋山荘



■①コース 水蒸気が上がる焼岳を越えて上高地へ（ゆっくりズム）

●日 程：8月20日(土)～22日(月)

●参加者：L砂川(延) SL松下 生永 泉 大塚 坂本 佐野 仲田 中村 西脇 福原

●行動記録：

(20日)各自松本駅14:00 集合

松本駅14:45 発一中の湯温泉送迎サービスにて旅館へ(16:30 着)

(21日)中の湯温泉登山口7:50 発～登山道入り口の標識8:20 発～中の湯新道出会い10:40 発～北方頂上(13:45 着)14:00 発～14:10 頃アクシデント発生の為休憩 15:00 発～中尾峠(15:40 着)～焼岳山小屋(16:00 着)16:30 発～渋沢 18:50(着)～19:50 発焼岳登山口～西糸屋山荘(20:15 着)

(22日)西糸屋山荘8:30 発～上高地バスターミナル9:30 発～松本～高速道経由～滝野社～各地途中下車5か所～姫路駅南 18:50 頃

◆感想文

仲田

今日からいよいよ夏山上高地焼岳へ出発する。1日目においては各自で現地松本駅14時集合目指し私達4人グループは姫路から新幹線で名古屋駅にてしなの9号の車両に乗るとリーダーを始めメンバーの仲間と合流する事になる。車内ではお喋りしながら外の景色は緑多い木曽路の山々を見ながら天候が悪くなるようで、今にも雨が降る様子である、明日の山登りは行っていないと分らんなあーとお喋りしている内に松本駅13時05分到着する出口付近で参加者11名揃う、旅館の迎えのバス迄時間があるので昼飯もまだなので4Fにあるお蕎麦屋さんに入り腹ごしらえをする。食事すませお腹も一杯になり旅館の迎えの場所へ向かいしばらく待っていると、バスがやってきた。今日の乗車は我々のメンバー11名に加えて他6名おられ、揃ったところで出発する。乗車から雨が降って来た。溪谷の山々を通過しダムや釜トンネル通り中の湯温泉旅館へ到着する。雨のほうも凄い降りようだ。旅館の案内の人から部屋、お風呂、食事等の案内聞く。明日の天候等も午前中は雨も止むようだ又午後から悪くなるようだとかされる。山荘などにくらべ対応が全然違う、夕食においてもご馳走が並び和気あいあいとお喋りしながら食事をいただく。山登りは明日起きてみないとわからないと、、、、リーダーのお言葉であった。食事を済ませ明日の用意をして就寝する。

翌朝起きてみて部屋から外の空をみると雲が少なく青空が見え太陽が少し見え隠れしておりこのままであれば、と思いつつ朝食の場所へ、メンバーの皆と豪勢な朝食をいただく、2杯目のおかわりを食べ十分な腹ごしらえ出来たようだ。リーダーも今日の天候具合をみて焼岳を登ると言われる。そのご皆んな出発出来る体制でロビーへ集合する。まず玄関前で記念写真を撮り旅館の裏側へ行きまずはストレッチ体操をはじめて出発に備える。さあこれから焼岳へ向かいスタートする。

全体的に薄暗く湿気の多い林の中や、薄暗い岩場の間を通るなどして山道を歩く

途中休憩しながら登って行くと、今日は休みなのと未だ夏休み期間なのか行きかう人達と出会うのが多かった様なきがする。最初は挨拶してどであったが、遠く溶岩ドームの山が見え始めると、出会う人達に後どれくらいで登れるのかなと、話しかけをすると未だ数時間かかると言われると言葉が出なくなり ええ、、、、頑張るしかないな、、だんだんと上の方へ登りはじめ

ると岩石や石ころが多くなり周りを見ると岸壁の岩肌などが綺麗に見えるなど、又硫黄の匂いや白いガスの噴煙が見え始めドーム型の溶岩が前に頂上近くまで丁度火口の淵縁近くの広い処で休憩をしながら弁当を食べる。下をみると火口湖が見えるところである。食べ終わると各自ヘルメットを着用して頂上目指して歩きはじめる。周りを見れば、溶岩の岩ばかりの上り下り箇所を注意しながら特に足場気をつけながら頂上へ辿り着く。やあつたあー見える景色は360度何とも言えない感無量の達成感を感じる。下方には梓川の蛇行や上高地が見える、周りの北アルプスの山々を眺めたあとメンバー全員で記念写真を撮る。その後至る処の溶岩や石ころなど足元注意しながら頂上を後にして下山を始める。岩山のごろごろ箇所を後にして今度は峠に向けて登山道を歩いていた時、アクシデントが起きる。足を滑らしたか



小石につまずいた定かではないがはっきり覚えていない。メンバーの皆も何が起きたかびっくりで呆然とされていたと思います。私も途中で止まり何が起きているかわからず、なんで私がこんなところにと意識があり、早くメンバーの処へと幸い手・足などが捻挫や骨折なく自力で歩けるのでメンバーの処へ合流する。外傷は手、足擦り傷等右目の瞼の付近の打撲等で鼻血などがでており、応急手当をしてもらおう。その後私のリュックを軽くしてもらい、2～3人の方に荷物を入れてもらってその後焼岳山小屋をめざし出発する。その後到着し休憩をし、出発する迄にリーダーから山小屋に泊まるか、どうするかと言われ行けるところ迄一緒に行きますといった後メンバーの皆と出発する。その後今回一番難所である岩壁の鎖を降りる処、とアルミの3段のはしごの処へ着くとひとりひとりシュリングセットを利用して慎重に降りて行き全員無事に下りることができました。その後下山の山道を下りながら歩いていると、途中から仲間の応援隊が近くまで来ておられる事がわかり、メンバーの皆も心強く思い元気をもらい頑張ろうと思えた。その後歩けど周りはいだんだん暗くなり、歩くことが困難で足元に明かりが必要なのでヘッドライトと懐中電灯が必要となる。小さな沢や山道のくぼみなど転んだりしながら歩くこと、2～3時間余り歩く林の道をすぎると、川の音が聞こえる様になったのでもうすぐだと、旅館の車が途中まで迎えに来てもらいホットする。リーダー始めメンバーの皆さんも良く我慢して歩かれたと思います。

宿へ着くと高御位の仲間の方が心配されてのお出迎えに有難く何とも言えない気持ちで一杯でした。有り難うございました。今回で一番強く思った事は、リーダーの会長始め夏山参加迄の打ち合わせ、メンバーの皆さんとの顔あわせ役割を始め、ロープの結び方、シュリングセットの使い方事前に教わった事がそのまま今回の貴重な体験をしました私自身、今まで数回夏山に参加していますが、今回初めてヘルメット着用しての経験は忘れる事ができないと、きっと神様のお蔭だと家内と話し感謝をしています。この場をお借りし高御位山遊会会員の皆様この度は私のアクシデント発生で大変ご心配をおかけし申し訳ございません。身体の方も毎日身体を馴らして順調に回復しておりますので一日も早く皆様に元気な姿でお会いするの楽しみにしております。有り難う御座いました。

■②コース 乗鞍岳～蝶ヶ岳

●日 程：8月18日(金)～22日(月)

●参加者：A班L上田 SL木村 兼本 苦瓜 橋本(健) 吉村

B班L春本 SL小田 兼澤 瀧原 本田 山下

●行動記録：

(18日)JR三ノ宮駅 20:00 集合～どっどこむライナー20:30 発

(19日)JR松本駅(5:00 着)～タクシー～乗鞍高原観光センター～バス～肩の小屋口 8:10 発
～肩の小屋(8:52 着)9:05 発～剣ヶ峰(10:20 着)11:05 発～肩の小屋(11:40 着)11:55
発～畳平(12:20 着)12:50 発～バス～平湯温泉～バス～上高地(14:50 着)

(20日)西糸屋山荘 5:00 発～明神(5:52 着)6:05 発～徳沢(6:50 着)7:10 発～長堀山(11:20
着)11:30 発～蝶ヶ岳ヒュッテ(12:47 着)

(21日)蝶ヶ岳ヒュッテ 6:40 発～長堀山(7:35 着)7:45 発～徳沢(11:30 着)11:45 発～明神
(12:22 着)(昼食・明神池)14:00 発～上高地(15:20 着)

(22日)上高地 9:00

◆青空に聳える乗鞍岳に登る

本田

「ラッキー。私たちはついてる」一日違いの昨日だったら悪天候で高原バスは運休だったとか。19日の早朝、4時40分頃に薄暗い松本駅に到着。神戸三宮からの夜行バスを降り、リーダーが手配して下さっていた3台のタクシーに分乗して乗鞍高原観光センターへ向かった。

山が迫り、いくつものトンネルを抜け、くねくねと曲がる細い道を進むタクシーの窓から見える朝の光の中の山々や林の緑がとても美しい。

乗鞍観光センター7時発のシャトルバスに乗り込み、乗鞍岳へと出発。バスは少しずつ高度を上げ昇っていく。それにつれ車窓風景も変化していった。トウヒやシラビソ等の常緑針葉樹や白樺林に見入っていると雄大な乗鞍岳の山容と大雪渓が見えはじめてウキウキと心が躍った。

肩の小屋口バス停でバスを降り、トイレとストレッチを済ませて、気を引き締め登り始めた。



空は青く、空気はピリッと冷たい。最高のお天気だ。大雪渓を左に見ながら肩の小屋まで登り、ちょっと休憩。肩の小屋から最高峰、剣ヶ峰を目指した。ガラガラ、ゴロゴロとした軽石の坂道でとても歩きづらい登山道で、緊張しながら登って行った。蚕玉岳からの展望は最高だった。目の前にはごつごつとした岩に覆われ青空に聳え立つ剣ヶ峰。眼下には蒼く雪解け水を湛えた火口湖、権現池。振り返れば槍ヶ岳や穂高連峰の展望がひろ

がっていた。本当に素晴らしい眺めだった。剣が峰山頂は人が多くて乗鞍本宮奥宮にお参り出来なかったのがちょっと心残りだったが素晴らしい大満足の登山だったなあ。

リーダーの上田様はじめ、色々とお世話してくださった方々、ほんとうに、本当にありがとうございました。元気を一杯いただいた思い出多い素晴らしい山行となりました。

◆槍・穂高の絶景を見る

吉村

8月20日(土)二日目は上高地西糸屋山荘を5時出発、梓川沿いを明神から徳沢へ向かう。川沿いの景色、清流の音は半世紀前と変わらない佇まいに、ほっと一安心しながら進む。

徳沢で小休憩の後、6時50分徳沢登山口(1.560m)から登山開始、すぐに樹林帯に入り展望の利かない長堀尾根の急登の連続を一歩ずつ登る。途中から霧が懸かりポツポツと降り出し雨具に身支度の上、尾根上の小さなピークの長堀山(2.565m)をへて妖精の池(オアシス)を過ぎると這松に変わる。



雨で視界が悪いなか数羽の雷鳥(幼鳥)に出会い元気をもらう。ほどなくしてなだらかで広大な蝶ヶ岳(2.565m)山頂へ、展望もきかず早々に蝶ヶ岳ヒュッテに12時50分全員無事に到着する。雨風とも強くなり視界なし、夕食を済ませて天気の回復を望み早々に床につく。

8月21日、4時起床、山小屋の窓から東の空の薄明かりが望め、一昨日の乗鞍に続き素晴らしい展望が期待できそう。

朝食後山頂付近で穂高・槍の雄姿、常念の穏やかな山容、遠く乗鞍も見え隠れし、雲海・御来光と思う存分堪能する。

6時30分山小屋を後に下山開始、昨日と同コースにて11時30分徳沢へ全員無事到着する。

明神池近くの「嘉門治小屋」で囲炉裏で焼く「いわなの塩焼」を昼食にいただく。大変美味で二尾食す。又、壁にはウエストーンから贈られた「ピッケル」が飾られ歴史を感じる。

明神池を散策後、上高地西糸屋山荘に順次帰り着く。身軽にして暫し河童橋付近を散策、写真に収める。リーダーはじめメンバーの皆様に感謝、天候にも恵まれ素晴らしい山行でした。

明日は名残惜しいが上高地を去り、アルピコ交通のお世話になり帰路につく。

追伸、この登山中、右足裏の「魚の目」も痛みに堪えて頑張ってくれたことにも感謝。

■③コース 蝶ヶ岳～常念山脈

●日 程：8月18日(木)～21日(日)

●参加者：L島谷 SL笹木 村上

●行動記録：

(18日)大阪・阪急三番街バス停 21:30 発

(19日)上高地バスターミナル(5:20 着)6:30 発～西糸屋山荘(荷物預け)～徳沢(8:30 着)8:50 発
～2000m平 10:20 発～長堀山 13:15 着(13:25 発)～蝶ヶ岳ヒュッテ(15:00 着)

(20日)蝶ヶ岳ヒュッテ 6:50 発～蝶ヶ岳 8:00 発～横尾分岐(8:20 着)8:30 発～横尾(11:15 着)11:40 発～徳沢ロッジ(12:45 着)

(21日)徳沢 9:00 発～明神 10:15 発～西糸屋山荘(12:20 着)12:30 発～大正池散策～
西糸屋山荘(15:15 着)

◆感激 北アルプスの眺め

島谷

19日は、徳沢からの長堀尾根の長い長い坂を辛抱強く歩きました。晴天であり、また時間に余裕もあるため、花やキノコや森の木々を楽しめたのは救いでした。森をぬけて蝶ヶ岳手前の尾根へ出た時、槍ヶ岳・北穂高はじめ北アルプスの雄大な姿にくぎ付けになりました。他の登山者が撮影を終えて歩いて行っても、私達はなかなかその場を去るのがもったいなくて小屋へ進めません。さらなる高みからの景色への期待をふくらませ、三角点をめざしました。夕食までの



時間、風に吹かれながら「あそこが大キレット」「北穂高、アルプ班はあそこへ行くの?」「あ、穂高小屋がみえる」「ザイテングラード、あんなに急?」「槍が。私達あそこに登るはずやった」と口々にお話ししながら過ごしました。東尾根側の南には遠く富士山が眺められ、共に富士山を眺めた「大菩薩嶺山行」参加者同士であり、幸福感にひたりました。翌20日は、横尾分岐の先にある蝶ヶ岳まで進み「槍に来たー」と記念撮影。横尾までの下り坂は、急ではあるけれど長堀尾根よりもかなり短く、個人的にはこちらの坂の上り下りが好みです。途中で雨が本降りとなり、早々に宿にチェックインして乾燥室稼働の恩恵を受けました。互いの山談議、次なる歩きたいコースは?、屋外の雨音を聞きながら長い緩やかな時間をすごしました。21日は、テント泊班、ひねもすのたり班と会い、夏山集中らしい雰囲気を楽しみました。

③班は、当初は「表銀座」として槍ヶ岳登頂を目指すメンバーが集まりましたが、より安全に歩くため上高地からの往復ピストンコースを選択しました。ところが、感染症による槍沢ロッジ休館のため槍ヶ岳登頂をあきらめ、蝶ヶ岳・常念岳山行に変更しました。しかし、その翌日には常念小屋まで休館となり、結局、蝶ヶ岳のみの山行となってしまいました。結果としては、20日雨天の槍登頂はかなわなかったはずで、何より、北アルプスの雄大な眺めに大満足の山行でした。

■④コース 北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳（アルプ山行）

●日 程：8月18日(木)～22日(月)

●参加者：L竹内 SL三木(悦) 尾内 平井

●行動記録：

(18日) 姫路 22:25 発～高砂阿弥陀 22:50 発～あかんだな駐車場(8/19・4:00 着)

(19日) 上高地バスターミナル 5:40 発～明神(6:29 着)6:37 発～徳澤園(7:25 着・朝食)8:00 発～横尾(9:04 着)9:39 発～本谷橋(10:24 着)11:00 発～涸沢ヒュッテ(13:17 着・泊)

(20日) 涸沢ヒュッテ 6:13 発～南稜分岐(7:50 着)8:00 発～北穂高岳テント場(9:25 着)9:30 発～北穂高岳(9:50 着)9:54 発～ドームの頭(10:52 着)11:05 発～涸沢岳(13:22 着)13:33 発～穂高山荘(13:51 着・泊)

(21日) 穂高山荘 6:12 発～ザイテングラード取り付(7:25 着)7:30 発～パノラマ分岐(7:51 着)～涸沢(8:28 着)～涸沢ヒュッテ(8:34 着)9:08 発～本谷橋(10:47 着)11:00 発～横尾(12:10 着・昼食)12:45 発～徳澤園(13:47 着)14:00 発～

21日帰宅班・上高地バスターミナル(15:30 着)

上高地泊班・西糸屋山荘(16:50 着)

◆アルプ 「上高地から涸沢、北穂、涸沢岳、奥穂高の岩稜帯を歩く」

平井

今年は春にアルバイトの臨時収入が入り、大手を振って上高地に行けるぞー！

どうせ行くなら北アルプス最高難度穂高と標的を定め、雪山山行でもお世話になったアルプグループコースに申し込みました。

事前トレーニングとして6/17 高御位山早朝登山、7/9 朝日山土曜トレ、7/17 書写山、7/18 鬢櫛山、苦編山、8/12 直前にリーダーと雪彦山縦走、朝6時から12時まで地蔵岳等でハシゴ、鎖、岩稜帯の経験を積みド根性をつけ、今回の穂高コースに臨みました。

学科資料として YouTube での北アルプス穂高事前学習、市立図書館で見つけた「穂高小屋版レスキュー日記」宮田八郎著書、「山と溪谷7月号：北アルプス三大岩稜帯」特にレスキュー日記は、遭難時のヘリ救助等、興味引く内容、食い入るように読みほしました。

さて出発当日、リーダーの都合で夜行バスからマイカーに変更、姫路深夜出発となりゆっくり出来助かりました。翌日早朝4時「平湯温泉あかんだな駐車場」に到着、バスに乗り換え上高地へ

8/19 上高地～横尾～本谷橋～涸沢ヒュッテ 13:17 分到着 本コースは2014年にテント泊





で一度訪れたコースであった。到着後爽やかな晴天の中、バルコニーで至福の時間、生ビールで乾杯！

翌朝 8/20 土曜日天気が気にかかるも 6:13 分発目指すはメインイベント北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳から宿への「穂高岳山荘」と、まだ見ぬ風景を夢見てコース確認しました。

実際は左手に中腹の涸沢小屋を見ながら急な登りを約4時間、何とか9:50分北穂高岳頂上3106mに立てました。その後次第に天気も雨まじりとなり暗雲さす。呼吸は高高度の

せいか、息はゼイゼイ徐々にメンバーからかなり遅れ気味、雨風も強くカップパに着替えるも、ヒョウ交じりの横殴りの暴風雨まして岩稜帯、鎖場、はしご、ロープの連続、一番は雨による寒さと猛烈な風、靴には雨が侵入し、前に進むも、戻るも出来ず、かじかんだ手に鎖とメンバーの激励に誘導され、なお尾根の風雪の来ない所で、やむなくリーダーのTシャツを貸していただき、危うく低体温症を乗り越えました。北穂高山頂から急なアップダウンを約3時間、なんとか穂高岳山荘に到着

まず冷えた体をストーブで加温、リュックからカップ、財布の紙幣まであらゆるものを乾かす。まさに「穂高小屋レスキュー日記」レスキューされる主人公状態だった。

翌日は少し風邪気味ではあるが、食欲旺盛、体はビンビンに回復 朝日を確認、山荘付近見事な雲海、ザイテングラードを通過、涸沢ヒュッテまでパノラマコースをお花畑に癒されながら下りました。8:30ヒュッテで休憩し横尾山荘に12:10到着。昼食(豚丼、リンゴジュース、レディボーデンアイス占めて¥1900)平地となり上高地までの3時間の道程、リーダーに必死に追い付いていこうとするも、足の指全部に血豆、筋肉痛、次第に上級者3名との差がひらき徳澤園での合流はあきらめ、一人行動、のち無事当日リーダー他3名で、安全運転で帰ってもらう旨の決別lineを入れました。16:50分何とか西糸屋山荘に着けました。

今回の山行は反省点とメンバーへの感謝、今更ですが、教訓の言葉に遭遇しました。

- ① まず山行装備に防寒具とあるのに十分な準備が足りず、低体温症になりかけた。

夏山3000mを侮るなかれ！100mで0,6度気温低下、風吹くと体感温度もっと下がる。

- ② またこんな山行不向きな体をしたメタボおじさんに、やさしく助言頂き助けてもらいました。負け犬根性からの脱却

- ③ 涸沢ヒュッテでの雑談時、山好きはみな「負けず嫌い」と聞き、僕の信念と違うな？

定年もすでに終わり人生戦う必要ないだろう！！と思っていたが、この真意は自分に対しての負けず嫌いでした。今回のように私がチームの足引っ張ることが全体を危険にさらす！今さらにいい言葉、アドバイスをいただいたと思いました。

纏め:西糸屋山荘に着いた時は、もう会をやめようと弱気を出したが、もうすこし努力しよう普通に平地歩いて、常人に差を開けられる。何故か？まだ答えは見つからない

まず適正体重にもっていく。また最近の学校での部活動でストレッチをみると、「ランジ」よく取り入れてます。ランジとは足を前後に開いた姿勢で、股関節やひざ関節の曲げ伸ばしを行うエクササイズとのことです。やってみようかな！！

■⑤コース 上高地ひねもすのたりのたり旅

●日 程：8月20日(土)～22日(月)

●参加者：L佐々木 SL和田 阿部 大谷 澤田(律) 待場

●行動記録：

(20日)大正池 11:45 発～田代池(12:25 着)12:35 発～田代橋(13:05 着)～帝国ホテル(13:10 着)14:10 発～上高地バスターミナル(14:20 着)～郵便局(14:25 着)14:35 発～河童橋(14:40 着)～明神(15:35 着)～嘉門次小屋(15:45 着)

(21日)嘉門次小屋 7:30 発～明神池(7:35 着)7:55 発～徳澤(9:00 着)9:30 発～ひだや(10:45 着)11:15 発～嘉門次小屋(11:20 着)11:45 発～河童橋(13:00 着)13:30 発～ウェストン碑(13:50 着)14:00 発～田代橋(14:15 着)～西糸屋山荘(15:30 着)

(22日)西糸屋山荘 8:30 発～上高地バスターミナル (8:40 着) 9:00 発

◆ひねもすのたりの意味は

阿部

ひねもすのたりの意味は、一日中緩やかにただのんびりと過ごすとの事でしたので参加してみました。20日は6:21の新幹線に乗り、名古屋で味噌カツサンドを買い、しなの3号で食しました。ソースが何とも言えずおいしかったです。車内放送の寝覚めの床の案内で石の名勝地も見ることができました。松本電鉄やアルピコバスに乗り継ぎ、釜トンネルを抜け、大正池到着。雨でしたので、傘を持って出発です。田代池と湿原を眺め、林間コースへ進みました。本来なら中千丈の水際で焼岳が見えるとの事ですが、本日は残念。

帝国ホテルでランチです。雨でずぶ濡れになってましたが、レストランの方々に優しく待合室へ案内して頂き、あまり待たずに食堂へ入れました。ほとんどの方がウワサの伝統のカレーを注文していましたので、私もカレーを頂きました。ルーとお肉のシンプルなカレーでしたが、家では作れない上品な味で絶品でした。コーヒー好きの私は、皆さんに待って貰いながら飲みました。満足、満足。



バスターミナルでSリーダーが絵葉書を窓口へ。その後少し歩くと、いつも旅行冊子で見ていた、憧れの河童橋。思っていたより短くみえましたが、橋、川、山。緑豊かで、とても素敵な場所でした。その後、小梨平を通り、テント場を眺めながら進み、白くザレタ砂礫を過ぎると明神橋です。嘉門次小屋到着です。

早く到着したので、ゆっくりお風呂に入り、リュックや服を干して夕食です。人生初のいわなの塩焼き、美味しいですね。皆さんは、骨酒で乾杯してました。夕食後は、隣の囲炉裏の部屋で、宿泊している皆さんとまったりとした時間を過ごし、早い方は7:30に私も8:30には、就寝してました。

21日は、朝靄が立ち込めていましたが、みるみる無くなり天気が回復しました。朝食後、ウエストポーチで7時に出発。まず、穂高神社の明神池に寄ってお詣りをして、池の周りを少し

歩きましたが、とても静かで、山と木々と池、何とも言えない、本当に何処からか神様が降りてきそうな雰囲気のある所でした。その後、徳沢のソフトクリーム目指してどんどん歩きました。徳沢のキャンプ場では、他のチームの方々と会いました。明神に戻って来てご褒美コーヒーとチーズキャラメルケーキで、皆んな笑顔になりました。嘉門次小屋へ着いて、イワナの甘露煮のそばを食べました。ケーキとそばの順番が後先になったのが、ちょっと惜しかったのですが、どちらも美味しかったので、文句は言いません。これからは右岸コースで、少し起伏があるそう



です。途中の岳沢湿原は、水も充分にあり六百山も良く見えて本当に美しい場所でした。河童橋に到着。西糸屋山荘に荷物を置いて、ウェストン碑を見に行きました。此处で、私とWさんとOさんは、折返して河童橋へ。SリーダーとMさんとSさんは、田代橋迄歩いて左岸コースで河童橋迄戻ってきました。3人を待っている間にも、アップルケーキを食べました。6人揃って河童橋の上で記念写真をパチリ。

西糸屋山荘で、お風呂を頂き、少しアクシデントがありましたが、6時から夕食、皆さんおつかれでした。

22日は、バスターミナルで、記念写真を撮って一路姫路へ、無事到着。

終わって見ると、歩いて歩いて歩いて、食べて食べて食べての山行でした。ただ帰宅しても体重が増えて無かったのは良かったです。優しいお仲間と一緒に歩いて楽しかったです。

■⑥コース 楽しんで登れる3,000m峰 乗鞍岳と上高地

●日 程：8月20日(土)～22日(月)

●参加者：L野村 SL安田 田中(重)

●行動記録：

(20日)新幹線のぞみ86号(6:38発)→(7:58着)名古屋駅 特急ひだ3号(8:43発)→(10:58着)高山駅～高山飛騨バスセンター(11:40発)→ほおのき平→乗鞍スカイライン→(13:40着)乗鞍(畳平)

(21日)銀嶺荘 4:30 発～富士見岳(4:55 着)5:25 発～肩の小屋(5:50 着)～乗鞍岳(6:55 着)7:35 発～肩の小屋(9:00 着)9:20 発～乗鞍畳平(10:10 着)10:25 発～肩の小屋バス停(11:00 着)11:30 発～上高地に移動→乗鞍エコーライン→乗鞍高原→さわんどバスターミナル→(13:20)着～河童橋～西糸屋山荘～河童橋 13:40 発～嘉門次小屋(14:40 着)15:05 発～明神池(15:10 着)15:20 発～河童橋 16:20 発～西糸屋山荘 16:25 着(集中泊)

(22日)上高地 9:00 発～帰路 集中バス～姫路

◆楽しんで登れた乗鞍岳

安田

久しぶりの夏山集中山行です。コロナの為、約3年間の辛抱でした。しかし、世間では8月から一挙にコロナ患者が増えている状況なので今回の出発も心配でした。自分は4回目の接種を受けているという安心感もあったので参加を決意しましたが、現実には会員殆んど変更なく参加していたように見受けられました。それだけ皆さんも待っていたのだと思います。一番心配したのはお天気です。私達のコースは3名とコンパクトだったので、何を決定するのも早く、すぐに行動できました。

一日目は移動日なので雨でも関係なく予定通りホテルに入る事ができました。名古屋から高山本線特急ひだで移動でしたが、車中から飛騨川沿いを遡行する景色はとても美しく、山は緑が濃く川は綺麗な水色で高山に着くまで飽きませんでした。

二日目の4時30分に日の出を見る為にホテルを出発します。昨夜の大雨が残っているか心配しましたが、雨は止んでいます。しかし雲が多かったので、日の出は無理かなと思いつつ富士見岳へヘッドランプを点けて登りました。頂上でしばらくすると雲が横長に切れて日の出を見る事が出来たのです。3人は大感激でした。いい写真が沢山撮れて大満足。



乗鞍岳の最高峰、剣ヶ峰にも登頂することができました。ここは雨になっていましたが、暫く朝食弁当を食べながら晴れるのを待つことにしました。ここから御嶽山や下の池が見え絶景とのこと。しかし中々晴れてはくれないので下山する事に。でも下に行くと晴れていたのではほっとしました。普段の乗鞍岳周辺は観光客が多いと思われるのですが、あまり人には会わず、私達は大変ラッキーかなと思いました。ここはまるでスイスの高原を散策しているような気分です。湿原では花は少なかつたように思いましたが、それでも名前は判りませんが色々な花が咲いていました。ここはよくポスターにもなっている美しい風景でした。



さて、ここから上高地へ移動となるのですが、昨日の大雨の影響で通常の定期バスは全て運休、上がって来ないことが判明。すると松本側からの臨時便が11時に、下にある駐車場に来ると、ホテルの方に教えて貰い、急いで下山しますが、歩いても歩いてもそのバス停が見つかりません。道が間違ったか？と3人は不安になりましたがな

んとか無事にバス停に辿り着きました。この時が一番ホッとしました。

上高地では今夜の宿に荷物をデポして明神池の見学と嘉門次小屋での岩魚を食べる目的で出発しました。全て計画していた行程ができたので大満足でした。あくる日に万歩計を見ると3万歩を出ていたのが驚きました。宿では他のチームのアクシデントなどがありましたが、一応全員無事に帰宅できたのはなによりでした。リーダーそしてTさん、有難うございました。

■⑦コース 上高地から蝶ヶ岳（テント泊）

●日 程：8月20日(土)～22日(月)

●参加者：L藤本 SL平石 森下 山本(清)

●行動記録：

(20日)姫路6:10発-上高地(11:55着)～徳澤キャンプ場(15:30着)(泊)

(21日)(蝶ヶ岳への日帰り山行は中止)徳澤キャンプ場9:00発～西糸屋山荘(14:00着)(泊)

(22日)上高地バスターミナル9:30発-姫路(15:47着)

◆標高1,562mテントの中で雨音を聴く

山本(清)

蝶ヶ岳の当日の登山指数は数日前のBからAに変わっていた。歩行時間はゆっくりペースに設定されているし、気象条件は良さそうなので何とか山頂に立てそうだった。

ところが松本駅前から上高地へバスで移動しているとき雨が降りはじめ、下車してからも止

む気配はなく、カップを着て傘をさして6.2km先の今夜の宿（テント泊）徳澤園をめざした。ネットで見る雨雲の動きは明け方には上がる予報を信じつつ、早朝3時の登山開始に備えて18時半ごろから眠り



についたが、テントをたたく雨音は一向に弱まる気配はない。

初めての山歩き教室の終了山行の時、雨と雷に一晚中怯えていたことを思い出したが今回は雨だけなので怖くはなかった。

出発予定の3時ごろにはテントから這い出すことさえ出来ないほどの大雨が降っていた。雨が上がるまで待てるほど時間に余裕がないため、蝶ヶ岳山行はやむなく中止となった。

お日様が上がる頃には青空が見えてきて雨上がりのキリリとした空気がとても美味しかった。片付けを終えてゆっくり景色を眺めたりしている頃、他のグループの人達に出会い再会を喜んだ。今回は蝶ヶ岳への助走で終わったが、いつか山頂に立って槍ヶ岳・北穂高をはじめ北アルプスの雄大な姿を眺めてみたい。



■⑧コース 三股から蝶ヶ岳（ヒュッテ泊）

●日 程：8月19日(金)～22日(月)

●参加者：L藤原(千) SL矢根 高島 田羅間 徳本

●行動記録：

(20日)安曇野穂高 4:55 発～穂高駅(5:05 着)5:15 発—三股林道ゲート(5:45 着)6:10 発～三股登山口(6:30 着)6:40 発～まめうち平(9:15 着)9:30 発～大滝山分岐(14:24 着)～蝶ヶ岳ヒュッテ(14:45 着)

(21日)蝶ヶ岳ヒュッテ 7:00 発～妖精の池(7:35 着)～長堀山(8:25 着)8:40 発～2000mの平(11:10 着)11:25 発～徳沢(13:30 着)14:25 発～西糸屋山荘(16:55 着)

◆20日 いよいよ登山開始

田羅間

時間より少し早く安曇野穂高着、歩いて穂高駅へ、そこからジャンボタクシーで三股林道ゲートへ。ストレッチを済ませ、登山口まで20分歩く。いよいよ登山開始。

樹林帯の中を登って行く。前日の雨でか道のそこかしこに水が流れていて、また川の音が大きく響く中、汗はかくものあまり暑くなく快適に登る。



力水(水場)、ゴジラの木を過ぎ、まめうち平と登る。その後常念岳が近く大きく望める登山道、素晴らしい眺めに感動しつつ、登り下りの登山者の多さに驚きつつ、声をかけ気分よく登る。

ところが、天気予報通りに雨が降ってくる。止んだり降ったりなのでカッパの上だけで歩くと本降りになる。しかも登山道は3段、5段、それ以上多い階段だらけ。

やっと尾根筋に着き、大滝山分岐からは強風に飛ばされそうになりつつヒュッテに着く。ずぶぬれ

で水も滴る状態。着くと安心したか手指がかじかんで震えがくる。部屋に移動し下まで着替えてホットする。個室で良かったと皆口々に言う。

◆念願かなう

藤原(千)

2020年夏山集中山行で蝶ヶ岳の計画を試みたがコロナ禍で中止となってしまう、今回再度提案させていただいた。蝶ヶ岳ヒュッテの予約方法が今夏から変わり、宿泊の1か月前からネット受付となった。メンバー有志で深夜0時を待ち入力するも、予約枠は一瞬で埋まってしまい誰も取れなかった。ヒュッテから歩行約2時間の距離にある大滝山荘泊も視野に入れ、宿泊3週間前の電話予約に賭けた。全く繋がらない状況だが根気よくかけ続け、ついにYさんの電話で希望の個室が予約できた。やっと計画が本格的に進められるようになった。

8月19日、大阪から夜行バスで安曇野穂高へ向かう。以下省略。

8月21日、早朝4時半から蝶ヶ岳までピストンの予定であるが雨のため諦める。ところが5時前から急に止み明るくなってきた。急いで支度をして蝶ヶ岳方面へ行ってみることにした。瞑想の丘に上がると、眼前に槍ヶ岳から前穂高岳までの岩峰が勢揃い！感激して、声を上げずにはいられない。写真撮影後もう少し足を延ばす。右方の雲海から朝陽が差し始め、左方の岩峰上

部が赤く染まり出す、モルゲンロートをしばらく観賞。雨の中を登った苦勞が報われ、素晴らしいご褒美をいただいた。そこから引き返して、昨日は行けなかった蝶ヶ岳山頂へ急ぎ、360度の眺望を楽しんだ。常念岳山頂から急降下している縦走路がよく見え、南には八ヶ岳らしき山体を確認、富士山は見えなかった。

7時下山開始、あたり一面ガスに包まれてしまい、先に山頂へ行っておいて良かったと言いかう。ハイマツ帯を抜けると、お花畑となり(ウサギギク、綿毛状のチングルマ、ゴゼンタチバナ、ウメバチソウ、ヨツバシオガマ、コゴメグサなど沢山の花々)、そこに5~6羽の雷鳥が歩き回っていた。延々と続くシラビソ樹林帯の中を下っていく。長堀山への唯一の登りはしんどく、山頂で遅い朝食をとる。2000mの平を目標に展望のない尾根を下るが、その名の通り堀のように長い道のり。「②コースの方々は、こんな所をよく登ったね〜。私達は下るからまだましだわ。」と



皆々何度も感心する。徳沢に近づくにつれ急坂で、悪道、丸太階段を付けて補修してあるものの歩きにくく、膝もだんだん疲れてきた。梓川の川音が聞こえ出し、樹間から山影が見えると、やがて徳沢に下山した。ソフトクリームやジュースで元気を取り戻し、河童橋までの長い道のりを完歩出来た。

2日間 無事に歩き通すことが出来たのは、メンバー全員の協力のおかげ。振り返れば、各シーンいずれも楽しい思い出と化し、喜びと感謝でいっぱい。皆さん、ありがとう、ありがとう。

■綿向山 (1110m) 鈴鹿山系 <女性委員会>

- 日 程：8月28日(日)
- 参加者：L尾内 SL小田 天野 笹木 瀧原 徳本 橋本(万) 本田
- 行動記録：北畑口バス停(9:15着)9:20発～西明寺バス停(10:10着)10:17発～御幸橋駐車場10:20発～ヒミズ谷出合小屋10:40発～五合目(11:50着)12:00発～綿向山(12:50着)13:25発～五合目(14:00着)14:15発～ヒミズ谷出合小屋(15:00着)15:10発～御幸橋駐車場15:20発～西明寺バス停(15:25着)15:35発～北畑口バス停(16:05着)16:23発

◆やっぱり山は眺望が一番！ 瀧原

綿向山(1110m)は滋賀県の東部に位置し、鈴鹿山系に連なっている。以前から一度行ってみたいと思っていたのでキャンセル待ちでも申し込んだところ、リーダーのご配慮で全員行けることになり感謝。

5時17分、青春18切符を利用して宝殿駅から乗車し、近江八幡駅でバスに乗り換え、北畑

口で下車。1時間ほど村の中を歩き、西明寺登山口から表参道へ入って行った。深い沢沿いに、舗装された林道を歩いてヒミズ谷出合小屋へ。ここから本格的な山道となった。杉の樹林帯の中、よく整備された、なだらかなつづら折りの道を上っていく。空はどんよりとした曇り空で蒸し暑い、時折、涼しい風が心地よい。単調な登りを25分程進むとやっと1合目。まだ1合目、さあ5合目の小屋までがんばろうと気合いを入れた。

お昼頃、5合目の小屋に到着。軽くレーションを食べて頂上を目指すことになった。小屋はきれいに掃除され、気持ちよく休憩が出来た。ここからは少しずつ斜度が増し、道も荒くなる。

7合目は行者のコバと呼ばれる広い場所。古くはこの山は霊山で山伏が修行し、この地で服装を整えるなどの儀礼を行ったそうだ。この辺りからブナの原生林が続き、緑が美しく空気が美味しい。夏道と冬道の分岐から夏道に入ると大きく山腹を巻いて行く。道は狭く片側は急斜面で切れ落ち、木の根も張り出している、緊張して歩いた。

眼下が開けたところに来ると頂上直下であった。何でこんな所に階段が？と思いながら100段あまりの急な階段を登っていく途中、見上げると上の方に青空と鳥居が見えたので参拝の階段だと納得した。登り切って正面のお社を拝み、周囲に目をやるとなんと360度の眺望！である。目の前の大きな雨乞岳、その後ろには長大な岩が突き出た鎌ヶ岳（鈴鹿のマッターホルンといわれているらしい）がどんとそびえている。遙か向こうまで鈴鹿の山並みが広がっており、伊勢湾もうっすらと見えた。反対側に目をやれば近江平野にかわいい山がぽつんぽつん見え、その向こうに琵琶湖が見えた。澄み渡った日には日本アルプスまで見えるそうだ。いつまでも眺めていたい景色であった。でも、そういうわけにもいかず下山開始。涼しい風とブナ林に差し込む日差しが気持ちよく、順調に下山は進んだ。

山頂のお社は麓の綿向神社の奥宮で、綿向山は神社の神体山だそうだ。古来より人々に信仰の対象として大事にされてきたことが分かる山の環境だった。「鈴鹿モルゲンロートの会」という標識があり、この会の方が山を守っておられるのだろう。このような自然に触れさせていただいたことに感謝したい。

16時23分のバスに乗り込み、今日の山行も無事に終了を迎えたと思うと眠りモードになっていた。

この山行を計画しお世話してくださったリーダーはじめ皆様、楽しい1日をありがとうございました。

